

はじめに

皆さん、大学生活は順調ですか。楽しくて仕方がないという人もいれば、期待はずれと感じている人もいるかもしれません。私たちは、学生の皆さんの適切な要望にできる限り応えて、快適な学習環境を整備したいと考えています。そのためには、皆さんが大学の提供している環境についての満足度あるいは不満度を的確に知る必要があります。早稲田大学では、その一つの方策として、学生の皆さんにアンケートに協力いただいて、毎年「学生生活調査」を実施しております。今年も多くの子生の皆さんに多少面倒なアンケートに協力していただきました。この場を借りて感謝いたします。どうもありがとうございました。

私たち早稲田大学の全教職員は、学生の皆さんが充実した学生生活を送れるように努力を続けています。しかし、一人一人が直接接する学生というのは、5万人の学生のうちのごく一部です。その印象から学生の全体像を考えるのでは不十分であることは明らかです。その意味で、この「学生生活調査」は、早稲田大学の学生の全体像を知る唯一の貴重な資料となっています。実際、この「学生生活調査」は、これまでの大学の施策を反省し、今後の方針を策定する際にもっとも信頼すべき有益な資料として活用されています。創立125周年を迎えた今、これからの早稲田大学の進む路をめぐって活発な議論が行われていますが、学生関係の議論の前提には、「学生生活調査」があったといって過言ではありません。

今年も、「学生生活調査」のまとめである『2007年度第26回学生生活調査報告書』を皆さんにお届けできる時期になりました。私たちはこの結果を真摯に受け止め、学生の皆さんの学習環境の向上のために一層の努力を注ぐ決意でおります。皆さんも是非目を通していただき、皆さんが感じたことを率直にお寄せいただければ大変ありがたいと思います。

資料の分析と執筆は、法務研究科 勅使川原和彦（1章）、商学学院 東出浩教（2章）、人間科学学院 百瀬桂子（3章）、文学学院 沖清豪（4章、6章）、理工学院 永田靖（5章）の各先生にお願いしました。また、調査結果と全体の取りまとめには、上述の永田先生にご協力をいただきました。末筆ではありますが、心より御礼を申し上げます。

2007年10月21日

学生部長 島田陽一